

ごあいさつ

富士通アクセス株式会社

代表取締役社長 富盛 清志



皆様，新年明けましておめでとうございます。

昨年，弊社はお蔭様で富士通電装株式会社としての記念すべき30年の足跡を残し，節目の10月1日をもって，(21世紀に新たな歴史を創るべく)富士通アクセス株式会社と社名変更しました。

社会やお客様とのより良いコミュニケーションを踏むために，先ずはアクセスすることから始めよう，『お客様や社会のニーズにもっともっとアクセスしたい』という社員全員の熱い想いを込めたものであります。

富士通グループとしてのアクセスネットワークビジネスの発展に向けて，開発製造を中心として弊社へ統合し，新しいビジネス構造に変わりました。アクセスネットワーク事業を核に，新しい時代を見据えた社会システム事業，パワーエレクトロニクスシステム事業への変革を目指して，新しく一步を踏み出しました。これらの事業群がより強いシナジー効果を生み出し，今まで以上にお客様にご満足戴けるものと考えております。

さて，新たな年を迎えたわけではありますが，世の中の景気は一向に回復せず，特に情報通信業界においては土砂降りとも氷河期とも揶揄されるほどの低迷が続いております。企業は生き残りをかけた熾烈な競争を余儀なくされ，どんどん疲弊の道を突き進んでいるようにさえ見受けられます。このような状況から一刻も早く脱却し，低下しつつある日本企業の国際競争力の回復を図ることが緊急の課題であると認識されます。そのためにも，国家戦略としてのe-Japan構想や日本電信電話株式会社殿の打ち出されている光新世代ビジョンなどの一層の拡大と早期実現が急務であると考えております。

21世紀は自然や環境とのつながりをより一層重視しながら，インターネットをベースとしたグローバル化の波とともに大きく変貌するものと予想されます。

弊社では，ADSL技術やFTTH技術を中心とした研究開発により，新しいビジネスの創出による経済の活性化や革新的な技術の創出による産業のICT化を幅広く押し進めるブロードバンドサービスの発展に貢献するため"スピード，スピードそしてスピード"のスローガンのもとにQfinity活動(無限のQUALITYを追求し，お客様との高い信頼関係を築き，企業価値の拡大を図ることを目的としたものです)を推進しております。

今回，新たな社名に対応して，FUJITSU ACCESS REVIEWとして発刊する運びとなりました。ブロードバンドアクセスネットワーク関連や新緊急通報システム，更には新しく製品化した可変電源e Pシリーズなどの論文および製品を紹介致しました。引き続き，より一層の充実を図る所存でありますので，ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

皆様方には，ご高覧の上，より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに，本年の明るい幕開けを迎えられますようお祈り申し上げます。